

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表日	2024年3月31日	事業所名	ひばりキッズジュニア 行橋こうめ
-----	------------	------	------------------

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			活動によってプレイルーム等を活用し、子どもたちが活動しやすい空間をつくっている。	
	2	職員の配置数は適切である	○			多機能での運営により、応援体制は充実している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			活動に合わせた環境づくりは心がけている。	
業務 改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			会社内で業務改善報告会を開催し、日々の業務の中での困りごと共有し、改善していきたいことをねり、各事業所の取り組みを報告している。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			評価表やアンケート結果をもとにクラス内で話し合いを実施し、どうしたら改善できるか、より良いものにできるか、形にしていくようにしている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で	○				公開していることを保護者の皆様等に、広くお知らせしていくこと。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			対応に困った場面があればすぐに職員間で共有し助言をもらっている。特別支援教育士の新任研修や事例研究発表会を開催し、研修を行っている。	
適 切 な 支 援 の 提 供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			児童の担当者を割り振りし、アセスメントや支援計画の見直し等を行うような仕組み作りに努めている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			アセスメントツールを使用し、評価の仕方や分析までを助言を受けられる体制となっている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○				
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			週案に長期目標・短期目標をあげて毎日の活動によって達成がみられるようにしている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			活動プログラム(月案)をクラス内で在籍児童の特性を考慮しながら決めている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			クラス職員が話し合い、放課後職員の意見を聞きながら立案し、固定化しないように工夫している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			個別活動とグループ活動が同時にでき、刺激の排除も兼ねたバージョンなどで区切り対応している。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			全体のミーティングにて、情報を共有し、その日のリーダーや、担当を決め、日々の支援を行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			その日に行うようにしているが、送迎の関係で困難な時は翌日のミーティングで行うようにしている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			週案にその日の様子や新たな課題点などを記入できるようにしている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			6ヶ月ごとにモニタリングを行い、評価の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			児童発達支援管理責任者や管理者が参加することが多いがケースによっては専門職が参加する場合もある。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○		常に情報を共有し連携が取れた支援を行っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		医師からの指示書をいただいたり、子どもの様子の情報を共有しながら、支援を行っている。また受診の際は同行する場合もある。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			担当保健師や学校教育課との連携支援を行い就学までのサポートを行っている。就学後も心配事が解決できるようにサポートを行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			会議等を開き、情報共有が出来るように取り組んでいる。調整が難しい時は、事業所の様子を書面にして渡している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○			センター等の取り組みや工夫点を参考にしたり、研修等があれば参加したいと思う。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある			○		現在は出来ていないが、今後地域交流が出来るようにしていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している			○	参加して他事業所の情報を得たり、当事業所の取り組みを話したりできている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡帳、送迎時の伝達その他、電話等のやり取りをして共通理解をおこなっている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		ご家族からのご相談があれば、専門職を交え面談を行っている。	

	チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に分かりやすい言葉で伝え、ご質問があった際にも丁寧に説明している。ようにしている。	
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○				
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			主に管理者や児童発達支援管理責任者が対応することが多いが、相談内容によって専門職が対応することがある。	土の職員も知識を増やし、相談に応じられるようになることが今後の目標。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○		感染症の関係で父母会は行えていないが、父母会必要性は要検討。今後は季節のイベントなどを企画し、参加できるような機会を作りたい。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			すぐにご家庭に訪問させていただき、経過を説明するようにしている。直接お話するようにしている。	
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			広報委員会を立ち上げ、毎月のおたよりを制作し配布するようにしている。	
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	○				
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			活動内容等の見える化を図ったり、撮影した動画等を見て頂いたりしている。	
40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○				今後は計画していきたい。	
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			職員間では周知できている。	保護者への周知が課題。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			年間で予定を組み、災害に備えた訓練をしている。	
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			契約時に痙攣発作について調査シートを提出頂いている。	
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			契約時にアレルギーに関する調査シートを提出頂いている。	
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			事故につながらない為に記録を残し、職員間で共有している。記録を確認した職員はサインを残す。	
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			虐待防止委員会をの設置、身体拘束の指針を整備し職員研修を行っています。	
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			現在、拘束の手段が必要な児童はいません。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果（公表）

事業所名	ひばりキッズジュニア 行橋こうめ
公表日	2024年3月31日

保護者等数／児童数	22／23
回答数 [割合 %]	18 [ 81.8% ]

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	14	1		3	ベッド数が少ないように思う。	ベッドだけでなく、マットやエアーマットを利用して支援させていただいています。ベッド数を確保すると移動スペースが限られてくるため、ベッドでなくても出来る支援を提供させていただいております。
	2 職員の配置数や専門性は適切である	12			6		基準の職員配置を満たしております。療育の専門職員の助言を受け、支援しております。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	15	1		2		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	14	1		3	オルゴールの曲がかかっていることあるが、必要以上に大きいと感じることがある。	子ども達が心地よいと思われる音量に気を付けてまいります。
適切な 支援 の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	13		1	4	計画書を作成する際、詳しく話を聞いてほしい。お迎えの時にその日の様子を話していただけるとわかりやすい。	保護者の方の話を十分に聞いたうえで、ニーズや課題を考えて、事業所で出来る支援内容を作成しています。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	11	1		6		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	12	1		5	本人が変わってきていると、保育園から報告を受けている。	現状の課題点とクリアすべき課題点を考えながら支援計画に沿って支援を行うように心がけています。
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	17	1				クラス内で検討し、立案しています。教課後クラスの職員の見も取り入れながら、子どもたちが楽しめるよう工夫しています。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	8	1	1	8		交流する機会が来ていません。関係作りも考えながら交流の場を作りたいと思います。
保護 者 へ の 説 明 等	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	17	1				
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	13	1		4	説明が不十分だと思う。	ガイドラインを踏まえたうえで、分かりやすく丁寧に説明を行って参りたいと思います。
	12 保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニングiv等）が行われている	3	4		11		療育の専門職との面談の場を設けています。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができていくか	13	2		3	今後そのような機会を増やしていきたい。	送迎時や連絡帳を通じて伝える機会を作っています。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	9	3	2	4	・面談を求めないと行ってもらえないので、定期的に面談を行って欲しい。 ・相談してよかったので、またお願いしたい。	これまでは感染リスク等もあり、なかなか面談が出来ていませんでしたが、今後は面談を検討しております。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	2	1	6	9		
16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	13			5			

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	14			4		
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている	8	2		8	子どもの様子を連絡帳などにもう少し細かく書いてほしい。	連絡帳にお子様のご様子の詳細を記載させて頂く時間が確保出来れば良いのですが、現在のところは、基準の配置職員の中で出来る記録を提供させていただいております。詳細が知りたい場合はいつでもご連絡頂ければご説明申し上げます。また、日中のお子様のご様子を見にいらしてください。
	19 個人情報の取扱いに十分注意されている	15	1		2		
非常時等の対応	20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている	10	1		7		災害対策、防災マニュアルは整備しております。感染対策委員会では毎月の自己チェック、年2回の研修を通じて職員に周知しています。
	21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	9			9		年2回の火災訓練、自然災害を想定した避難訓練を実施しております。
満足度	22 子どもは通所を楽しみにしている	13	4		1	行く前は行き渋りがありますが、行くと楽しいみたいです。	楽しいと思える活動の中に療育を取り入れ、楽しく来所していただけるように努めます。
	23 事業所の支援に満足している	18					今後も保護者との情報共有を図り、支援内容をお伝えできるよう努めていきます。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。